



No. 179
三木市剣道連盟
広報部
4月～6月号
平成29(2017)年
7月1日(日)発行

- 剣道連盟勉強会 (1面)
- 別所公春祭り共催剣道大会結果 (2・3面)
- 高校合同合宿・東播少年剣道大会結果・中兵庫少年剣道大会 (4面)

◎本紙は三木市剣連HP (<http://mikikeren2011.web.fc2.com/>)でもご覧になれます。PDFでカラー印刷できます。

三木市剣道連盟会員勉強会

黒田先生を講師に「切り返し」の大切さを学ぶ

平成29年度最初の連盟主催事業である「連盟会員勉強会」が、4月9日(日)9時15分より加佐コミュニティスポーツセンターで行われ、一般会員と市内高校剣道部員計35名が参加した。

講師は、三木市剣道連盟指導顧問黒田忠夫教士七段。今年の講演のテーマは「切り返し」だった。前半の講話では、切り返しについてのどのような解釈がされているか、鹿屋体育大学前阪茂樹氏の論文「剣道の切り返しについての一考察」を使って江戸時代や明治以降、現在に至るまでの資料をもとに説明された。



切り返しについて勉強する参加者

的な稽古法。剣道を習うものにとっては初心者も熟練者も必ず行わなければならない大切な稽古法だとされている。現在は正面より右面前進4本後退5本より正面を一回とすると決められている。

時代をさかのぼり、明治期、大正期、昭和初期に書かれた資料から、①本来の「切り返し」の意味は、表から裏、左から右に連続して太刀を返すことにあり、一般に左右の面を打ち返すことである。②本来単独か上級者に懸かるものであったが昭和初期には元太刀を交代して交互に行う稽古形態へ変化した。③「十字形に切る」「左右の面を矢筈掛けに切る」等の表現から「左右均等角度ぐらいで打つ」に、より分かりやすい表現となった。また古くは形稽古あるいは打ち込み稽古の一貫としてとらえられていたものが単独の技術・運動形態として説明されるようになったなど解説された。

切り返しは、時代により違いはあれども、古今の資料に共通することは、切り返しは剣道の稽古の中で最も重要であるということだ。



講話の後は、参加者全員面を着けて、黒田先生の指導のもとで基本の切り返しをはじめ、基本技の練習、打ち込み稽古、かかり稽古と基本を大切にしたり稽古を行った。日ごろは子どもたちにも指導する立場の会員が自ら厳しい稽古を体験、その厳しさに息が上がる者もいたが、まさに基本の大切さが身に染みて理解できたのではないかと。

昼休みを挟んで午後も打ち込み稽古から、様々な基本技の稽古を丁寧な指導いただき、多くの参加者にとっては、「目からうろこが落ちる」ような思いを抱いたものも少なくない。朝から始まった勉強会は、午後3時過ぎに基本稽古を終えたのち互角の地稽古で締めとなった。最後に小椋治朗三木市剣道連盟副会長が謝辞を述べ、充実した勉強会は閉会した。

別所公春祭り共催剣道大会 各部で熱戦が繰り広げられる

平成29年5月5日(金)、晴天に恵まれたこどもの日に、恒例の別所公春祭り共催剣道大会が三木市民体育館で開催された。参加者は、小学生61人、中学生30人、高校生20人の計111人。

午前8時30分から約1時間、参加者全員が合同稽古を行い、たっぷり汗を流した後、9時30分から開会式が始まった。来賓として、大会名誉会長の藪本市長の代理、北井副市長をはじめ、大会顧問の仲田三木市体育協会会長、松本教育長が出席した。

開会あいさつでは、大会委員長の神澤三木市剣道連盟会長が、「このほり一年ぶりの深呼吸」「薫風やきれいに見えるお母さん」の句を新聞記事から引用し、この句を作った子どもたちの気持ちのように、素直な気持ちで剣道にも取り組むことが大切だと話した。

北井副市長は、三木市の姉妹都市、米国のバイセリア市民に別所長治公の話をしたところ、アメリカの人もたいそう感動したという逸話を紹介し、別所公の遺徳を偲び正々堂々と戦ってほしいと話した。松本教育長は、昨年5月5日

に開館した三木市立歴史博物館で三木合戦の展示を行っているのがこの機会に訪れてほしいと話した。選手宣誓は、三木平田少年剣道教室主将の6年生松井百花選手が元気よく行い、参加選手の士気を高めた。



元気よく選手宣誓をする
松井百花選手(三木平田)

試合は個人戦、小学生4年以下男子、女子の部、5・6年男子・女子の部、中学生男子・女子の部、高校生男子・女子の部の8部に分かれて4試合場で行われた。4年生以下男子の部は15人が参加、小学1年生3人、2年生5人、3年生5人、4年生2人が4つのリーグで予選を戦い、三木少年剣修会4年生の倉津選手が鋭い打突で決勝に進出、自由が丘の3年生

角石選手を破り優勝した。3位には、志染SSDの3年生平野選手と同じく志染の3年生山下選手が入り、嬉しい入賞を果たした。



写真右から優勝した倉津(研修会)、準優勝の角石(自由が丘)、3位の山下(志染)、同3位平野(志染)の4選手

4年生以下女子の部は、4年生1人、3年生5人、2年生が4人、1年生1人の計10人の出場。4リーグで予選が戦われ、三木平田鳴美選手(4年)が常に技を繰り出す積極的な試合運びで、自由が丘の磯口選手(3年)を破り決勝へ進出。相手は元気な自由が丘の2年生中張選手だったが、得意のメンで優勝を決めた。3位には自由が丘磯口選手(3年)と三木平田藤原選手(3年)が入賞した。



写真右から優勝鳴美(平田)、準優勝中張(自由)、3位の磯口(自由)、3位藤原(平田)の4選手

5・6年生女子の部には9人が参加し、3人ずつで3予選リーグを戦った。所属教室と人数は、自由が丘5年生4人、三木平田6年生2人、緑が丘5年生、6年生各1人。決勝巴戦に勝ち上がったのは三木平田主将松井選手(6年)と自由が丘中山選手(5年)、同じく自由が丘小林選手(5年)の3人。動きの鋭い小林選手が得意のメンを決め中山、松井両選手に圧勝し、堂々の優勝を遂げた。松井選手対中山選手は、引き分けて、両者同じ1敗1分けのため、一本勝負の再戦。松井選手が粘る中山選手に対し会心のメンを決め、6年生の意地を見せ準優勝。3位に中山選手だった。



写真右から優勝小林(自由)、準優勝松井(平田)、3位中山(自由)の3選手

5・6年男子の部は、27人(5年生15人、6年生12人)が参加し、8つの予選リーグが行われた。実力をつけてきた各教室の主力選手が優勝を狙って競い合う中、志染の主将河野選手(6年)が貫録を見せつけ予選、準決勝を制し、決勝でも緑が丘の先坊選手(6年)に